

# 社頭図とめでたき景観

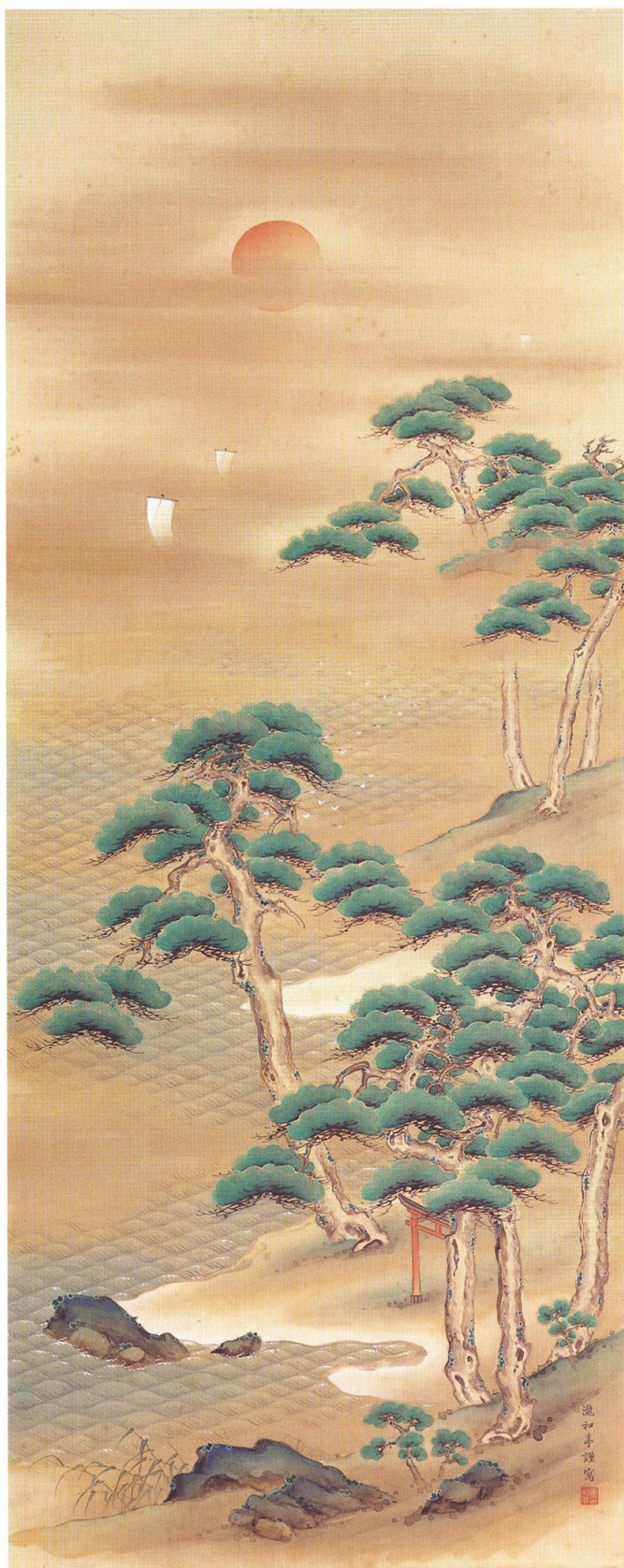
## 6 住吉富士吉野図

瀧和亭・狩野永恵・野口幽谷

三幅対

明治二十二年（一八八九）頃  
絹本着色

本紙各一七一・一×六八・五



明治二十二年（一八八九）の嘉仁親王（大正天皇）の立太子の儀に際して、宮内省侍医および武官一同より献上された三幅対。中央は狩野永恵（一八一四～九一）による富士図、右に瀧和亭（一八三〇～一九〇〇）の住吉図、左に野口幽谷（一八二七～九八）の吉野図という構成となっている。作者は、いずれもこの後に帝室技芸員に任命されることになる大家たちである。富士、住吉、吉野は勿論実在の場所であるが、本図に実景写生的な要素は一切なく、富士は室町時代にはすでに認められる三峰型の典型的な山頂表現である。旭日がのぼる住吉大

社の浜辺は、謡曲「高砂」にもうたわれる相生の松が鳥居とともに描かれ、文様化した波の上には前近代的な帆掛け船がかぶ。流派の異なる三人の画家による合作であるが、和亭と幽谷の松、永恵と幽谷の曲線の山容などには明らかな共通性があり、大和絵様式で統一しようという意図がうかがえる。明治二十年代という制作時期を考えると非常に古様を意識した画風であると言え、古くより歌枕としてうたわれた名所を実景ではなく、御慶事を寿ぐにふさわしい観念的な理想の風景として表現しようとしたと考えられる。







- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

## 寿ぎの品々を読み解く

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 75

編集 宮内庁三の丸尚蔵館  
制作 株式会社 東京美術  
翻訳 黒川廣子  
発行 宮内庁  
平成二十九年一月七日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanmonnan Shozokan